

市町名	学校名	パイロット教員名
北広島町	千代田中学校	石浦可愛

開発及び実践した単元についての成果と課題、今後の改善

【 成 果 】

「課題発見・解決型学習」の単元を開発することにより、本校全体で取り組むべきこと＝「授業づくり3本柱」を見出すことができた。

○導入の工夫

課題意識をもたせるために、クラスで「意識調査」を行い、その結果を生徒に示した。生徒は、質問に対して「正確に答えられない人が多い」ということに気づき、意外性を感じていた。次に、他の地域の意識調査を提示した。自分が期待していた正答率よりも低いことや、自分たちの正答率よりも低いことに驚き、「なんで?」「いけないだろう」と思わずつぶやく生徒がいた。

【資料1】3年A組の意識調査

① 今年は何歳? 70%	79.3%
② 広島に原爆が投下されたのは、1945(昭和20)年8月6日(金)15時	76.3%
③ 終戦日は、8月15日	41.3%
④ 長崎に原爆が投下されたのは、1945(昭和20)年8月9日(日)11時25分	41.3%
⑤ 広島県で空襲にあったのは、広島市と呉市	34.1%

【資料2】※平成22年度実施 平和に関する意識調査(広島市対象)より

項目	H17	H18	H19	H22
「広島原爆投下の正確な年・月・日・時分」についての知識・理解(全て正解の場合)	55.7%	35.2%	49.6%	33.0%
	74.7%	63.0%	67.6%	55.7%
	—	—	—	66.3%

また、調査された年に着目し、その変化について考える生徒もいた。

「予想」したり「比較」させたり、また「ズレ」や「ギャップ」をもたせたりすることから、生徒は何かしらの思いをもち、それが「課題意識」になり、そして、「考えなくてはならない」「考えたい」という意欲や責任になっていくのだということがわかった。

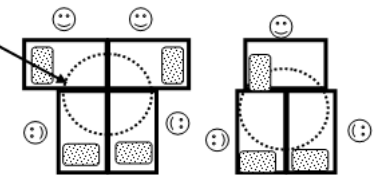
《「課題発見」の単元開発を行う際のポイント》

- ・ズレやギャップなど、「あれ?」「どうして?」と感じるような仕掛け
- ・ゴールの姿など、学習後がイメージできること
- ・学習後の振り返り(わからなかった、疑問など)
- ・他教科・領域・地域との関連

○小集団での学習

「小集団での学習の進め方」について、例えば人数や約束事などを生徒・指導者が共有しておくことが必要。教科や課題に合わせ変わることもあるが、活動の基本的な部分を徹底することでスムーズになることがわかった。

- 授業道具は外側に置く。空間を作り、話しやすい環境にする。
- 全員で見るものは真ん中に。



また、「相互の係わり合いの仕方」や、「学習活動の理想の姿」を示すことも必要である。具体的な姿や手本を示すことで、目指すべき姿がわかり、そこに近づこうと主体的に取り組む姿があった。単元では、思考ツールを使用した。多様な視点から分析し、その情報を関連付けて思考するための手立てとなった。「小集団での学習」の理想の姿を生徒・指導者が共有し、そのための手立てを具体的に示すことを今後も進めていく。

○振り返りの充実

単元や授業の終わりに学習を振り返らせることで、「新たな課題の発見」と「学び続ける態度の育成」の2つの効果があることがわかった。1つ目の「新たな課題の発見」では、めあてに対する自己評価に加え、自己の学びを振り返らせる。理解できなかったことや疑問に思ったことも記入させることで、自分だけの「新たな課題」が生まれ、次への学習の目的がもて、意欲につながる。2つ目の「学び続ける態度の育成」では、単元や教科を超え、関連づけた振り返りをさせることで、「学びの広がり」を体験させることができ、単元終了後も自ら学び続ける態度が育つことが期待できる。

このように、学習の振り返りをするにより、生徒それぞれが学びにつながるを見つけ、一人一人独自の新たな学びを見出すことが期待できる。

【 課 題 】

- 1時間で収まらない授業があり単元の授業時間が計画よりも多くなった。
- 国語科ではなく、他領域で扱うことが望ましい内容を含んでいた。

【今後の改善】

- 1時間1時間の学習の積み重ねによるゴールとなる単元計画の作成
- 年間指導計画・単元計画の作成(時間を確保し、活用する力を付けるため、既習事項や指導事項の関連等の整理)
- 他教科・領域との関連付け

